

ROYAL-TIMES



写真=4Fの庭園 (2025年2月10日)

春の気配

岡 聖史
2025年 3月 1日

三寒四温の言葉通り、少しずつ暖かい日が増えてきました。とはいえ、春の陽気にはまだ少し遠く、朝晩の冷え込みが気になりますね。しかし、そもそも春は寒さとともに訪れる季節でもあります。

ロイヤルホームでは、春を迎える準備が整っています。3月下旬にはお花見を予定しており、外出を伴うレクリエーションの計画も進行中です。一方で、花粉症の方々にとってはつらい時期でもあります。できるだけ花粉を浴びない工夫をしつつ、ホーム内でのレクリエーションも充実させていきたいと思っております。

さて、今月は雛人形を飾りました。その様子と、ご入居者様のご様子についてお伝え致します。



写真= (2025年2月5日)
恵方巻・稲荷ずし御膳、あえ物、お澄まし、カットフルーツ



写真= (2022年 3月)
1Fに飾られた雛人形の様子

雛人形を飾りました

高橋 望
2025年 3月 11日

今年も3月を迎えることが出来、当ホームの玄関前には恒例の雛人形が飾られました。当ホームの雛人形はお内裏様とお雛様に続き、下段に配置された三人官女がその優雅さを一層際立たせています。三人官女は、古来より宮中行事の中で上品な美を象徴する存在として親しまれ、江戸時代に庶民の間に広がった雛祭りの伝統の一端を担っています。彼女たちは、それぞれ異なる服飾や髪飾りで飾られ、貴族の女性たちの気品や優雅さを表現する役割を果たしているといわれています。例えば、華やかな色彩の着物や繊細な模様は、当時の流行や美意識を反映し、現代に生きる私たちにとっても、日本の伝統美を感じさせる貴重な文化遺産となっています。また、レクリエーション担当の職員が丹精込めて飾り付けを施してくださるおかげで

毎年この雛人形の飾り付けは、施設全体に季節感と温かみをもたらす風物詩となっています。入居者様やご家族様が玄関を通るたびに、その美しさに足を止め、感嘆の声を上げる姿は、私たちにとっても大きな励みとなっています。中には、懐かしい記憶をたどるかのように、雛人形に触れてその質感を確かめる方もいらっしゃいます。さらに、日々の業務に追われる職員も、この雛人形の前でひとときの安らぎを感じることができ、笑顔がこぼれる瞬間があります。三人官女の細やかな表情や装飾は、見る者に穏やかな感情を呼び起こし、忙しい日常の中でほっと一息つく大切な時間を提供してくれています。私たちは、この伝統の風物詩を通じ、季節ごとの美しさと温かな交流を、今後も大切にしていきたいと考えています。来年もまたこの雛人形が飾られることを祈っています。

今月のトピック

■雛人形を飾りました

■マッサージは人気です

■今季のレクリエーション

■委員会報告(家族連絡会)

マッサージは人気です

岡 聖史
2025年 3月 12日

あおぞら訪問マッサージでは、国家資格「あん摩マッサージ指圧師」を持つ鍼灸マッサージ師・古賀さんが、ご希望の曜日にお部屋へ訪問し、施術を行います。

訪問マッサージは、リハビリテーションとは異なり、筋肉の緊張を和らげ、血行を促進する「もむ・おす・なでる」といった手技に特化したサービスです。特に、慢性疾患を抱える方に向けて、長期的で安定的、かつ継続的なマッサージ治療を提供しています。（ご利用料金目安：健康保険適用で1割負担の場合、30分あたり約500～600円）

マッサージは、慢性疾患による手足のこわばりや関節の動かしにくさを和らげることを目的とし、ご入居者様の身体の状態を丁寧に確認しながら施術を行います。実際にご利用されている方からは、「古賀さんの施術は、痛みやこわばりがある部分を大きな手のひらでほぐしてくれるので、とても気持ちがよく、気分転換にもなる」との声が寄せられています。私たちは、持続可能なケアチームの地域パートナーとして、これからも皆様の健康を支えてまいります。



写真＝（2021年12月）古賀さんがマッサージを行っている場面

VOICE

2025年 3月 9日

皆様こんにちは。日差しが春の訪れを告げる頃となりました。ロイヤルホームに勤務し1年が経ちました。あっという間の1年で回りのスタッフやご入居者様に助けられながら過ごした1年でした。まだまだ至らぬ点も多く、ご迷惑をお掛けするかと存じますが、今後ともよろしくお願いいたします。



・皆様、こんにちは。おかげさまで、ロイヤルホームでの勤務が1年を迎えました。皆様と過ごす中で多くの事を学び、気づきの多い1年となりました。また、皆様の笑顔を見ることが日々のやりがいとなっております。これからも安心して過ごせる環境を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



振り返り

岡 聖史
2025年 3月 1日

アイデンティティーワークという言葉があります。自身の信念を仕事の中でどのように適応させ実現させるかを意味するそうです。人には「これだけは譲れない」という部分があります。ここが侵害されると強いストレスをうけて、燃え尽きるか、退職するかといった転帰を迎えます。本来であれば、境界線を引いてそこが侵害されない様に組織的に守ることが必要と考えます。しかし、日本の社会はここが不十分であり、職員が働き続けるための持続可能性には鈍感な様に感じます。



今季のレクリエーション

2月のイベントでは、恵方巻作りを行いました。細い海苔巻きをいくつか作り、それらを大きな海苔巻きの中に入れ込む、手の込んだ作業に挑戦しました。ご入居者様約10名が参加され、にぎやかな雰囲気を楽しまれました。最後に恵方巻をカットし、断面が見えると「あら～」と感嘆の声があがりました。最後は、皆さままでおいしく召し上がり、楽しいひとときを過ごしました。写真＝（2025年2月5日）

委員会活動報告（家族連絡会）

岡 聖史
2025年 3月 1日

2025年2月21日（金）、家族連絡会（旧・運営懇談会）を開催しました。今回の会では、ホームの運営状況について報告するとともに、教育部を「職員サポート部」として改組したことをお知らせしました。また、新たに着任した金子部長より、職員サポート部の今後の方針についてご説明がありました。さらに、料金改定についてホームからご提案し、ご家族の皆様と意見を交わしました。改定に関しては、さまざまなご意見を頂戴し、それらを十分に考慮しながら

慎重に進めてまいります。また、ご家族様とフロア管理者との意見交換の場も設け、日頃の運営やケアに関するご要望を伺いました。

今後も、ご家族の皆様とともに、より良いホームづくりを進めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

写真＝（2024年7月 家族連絡会の様子）

